

公務員宿舎(津波避難ビル)での避難訓練

令和2年10月21日
管財部管財総括第二課

コロナ禍に感染予防対策のうえ地域住民と連携し、高松市内の合同宿舎(深田住宅)において、3回目となる津波避難訓練を実施。

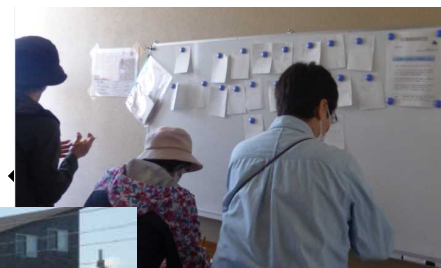
◆地域住民との避難訓練の実施

- 令和2年10月21日(水)、津波避難ビルの指定(H26.7.1)を受けている合同宿舎・深田住宅(高松市木太町)において、周辺の自治会参加のもと、3回目の避難訓練を実施しました。
- 当日は、午前9時40分に南海トラフ巨大地震が発生したとの想定で、34名の参加者が深田住宅の3階廊下(避難指定場所は3階以上の廊下等)へ避難し、伝言板を活用した訓練を行いました。
- その後、木太コミュニティセンターへ移動し、自衛隊香川地方協力本部の協力を得て、非常持出袋に入れる物のポイントや様々な場面を想定した負傷者の搬送方法、身近なものを活用した簡易担架の作り方等、災害時に知っておくと役に立つテクニックについて、実演を交えた訓練を実施。また、簡易担架での搬送を参加者が実体験しました。
- 参加者からは、「自宅からの避難経路が確認できた」、「伝言板があれば家族に伝えたい事を残せるので便利」、「自衛隊の訓練はわかりやすくてためになった」、「早速非常持出袋を準備したい」といった意見が聞かれ、地域住民の防災意識の向上につながった。

参加者の検温、手指消毒



伝言板活用訓練



自衛隊による実演訓練の様子

非常用持出袋の説明



簡易担架での搬送



非常食の説明



【園児たちも飛び入り参加】
自衛隊の車に興味深々



【今後の課題】

コロナ禍での津波避難訓練に近隣自治会から34名の参加があり、アンケートでもほとんどが「次回も参加したい」との回答であった。今後も効果的な訓練の企画や事前周知を工夫し津波避難訓練を継続することが大切と考える。

【熱心に訓練に取り組む参加者】